



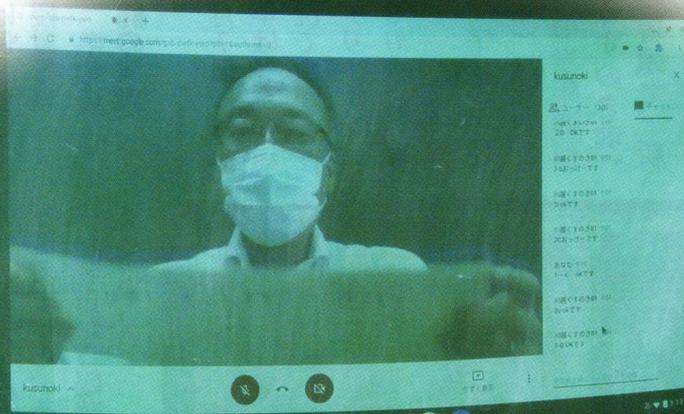
川高同窓会報



埼玉県立川越高等学校同窓会
〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【同窓会】電話・FAX(049)225-9071 (HP) <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>
【学校】電話 (049)222-0224 (HP) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

特集 「コロナ禍で我が母校は」



リモート始業式で、黒板に投影された映像を通じ生徒に挨拶する飯田校長=昨年8月25日

目次

特集1「コロナ禍で我が母校は」

●校内活動……………2

●初雁医会と新型コロナ……………4

●コロナ禍での充実した生き方……………6

会長・校長挨拶……………7

特集2「川高初雁の森」が令和

2年度彩の国埼玉環境大賞「優

秀賞」を受賞……………8

植樹料納入者(令和2年度)……………10

「地区初雁会」新会長紹介……………11

第20回「くすの木俳句大会」の

案内……………12

「川高サイエンス探究」報告……………13

母校人事異動……………14

令和2年度事業・決算報告……………15

令和3年度事業計画・予算……………16

終身会費納入者(令和2年度)……………17

進学状況・部活動の活躍……………18

「くすのき未来塾」再開へ……………18

秋季散策会のご案内など……………18

叙勲・褒章受章者……………19

川高のクスノキが日本128大

樹名木に選ばれる……………19

総会・記念講演のご案内……………20

講師 山野清一郎氏(高12)

編集後記など

特集1

コロナ禍で我が母校は

新型コロナウイルス感染防止のため、新年度早々、未曾有の臨時休業となった教育現場。川高では保護者抜きの入学式や、オンライン配信による動画授業を実施。例年6〜7千人が鑑賞する「くすのき祭」名物のウオーターボーイズも保護者のみ参観の非公開の演舞となりました。

通常授業開始までの川高

新型コロナウイルス感染の危険性が高まる中、県教育委員会は年度当初から5月26日まで臨時休業期間を延長。そ

うした中で、4月7日には入学式を挙行。例年は多くの保護者も参列し盛況ですが、今年には広い体育館アリーナを会場に、新入生360人と教職員のみで実施。



学年主任 (※) は当日配付の学年通信『くすのき魂』の冒頭で、新型コロナウイルス影響下のスタートを「逆風に負けることなく、与えられた状況の中、何も言われなくても川高生になるに

はどんな準備が必要かを自分の頭で考え、行動する機会」と伝えました。そして、入学早々翌日から臨時休業に入りました。



新入生・教職員のみ参加の入学式 4月7日

学校は、連絡手段として公式ホームページに各学年用の連絡板を開設し、随時更新。また、自宅学習の課題等はレターパックや、やや大きめのダンボール箱で発送。休業中の学習の補助として、一部教科でオンライン学習システム(写真頁中央)を活用した学習に取り組み始め、通常授業が開始されるまでの間に、3学年で220を超える動画授業を配信。その後、クラス5人ずつによる時間差準備登校4日、学年別登校3日、学年別実力テスト3日、クラス2分割授業のための分散登校7日を経て、6月22日よりマスク着用による通常授業を開始しました。

校歌・応援歌の指導

例年、入学直後に実施している「校歌・応援歌指導」。今年は臨時休業後の6月末に、応援部による演舞とともに

に「校歌・応援歌披露」に簡素化。その後、1学期末、短縮された夏季休業後の2学期当初は、リモート始業式で全校生徒が一堂に会しての校歌斉唱はなし。9月に入り実施した部活動の壮行会時、応援歌はもとより校歌の歌詞すらおぼつかない1年生部員がいる現状に対し、各運動部や応援部3年生を中心に危惧する声が出始めました。そうした中、感染状況が比較的安定していた時期に、入学してから一度も校歌、応援歌を歌うことのなかった第1学年に「校歌・応援歌指導」



全員マスク着用で行われた校歌・応援歌指導 10月23日

オンライン配信で動画授業する教員 5月13日
 を実施。実施日は第2学年が学年行事で不在の10月23日。当日は雨天で、予定していた3会場に分散し密集を避け、窓全開で換気に留意し、全員マスク着用で実施。強い危機意識を持つ応援部3年生が授業二時間の公欠を許可され指導。彼らの指導に対し、「例年ほどではないが、かなり厳しかった」との評価が聞こえ



くすのき祭の中で、水泳部のウオーターボーイズの人数は高く、例年文化祭来場者の約半数が鑑賞。ここ数年は6千人から7千人。例年2年

ウオーターボーイズ

成感からか清々しい表情の生徒が多く、「これで少し川高生になれた」という声も多数聞かれました。

実施後には達々とした。しかし、上級生からの厳しい指導にも、意欲的に歌詞を覚えようと真剣に取り組む生徒がほとんどでした。

実施後の1年生の反応は多様。実施前から「秋になって今更」と反応した1年生や、実施後の新型コロナウイルス感染を危惧する保護者もいました。

実施日は、第73回くすのき祭(今年度は川高生のみ)の校内開催で実施)翌日の9月5日、授業のない土曜日。取材希望の民放2社には、練習風景を当日前に放送しないよう依頼。当日は入場券を事前配付した保護者家族と、休みにもか

生は、今年度は登校すら困難な中で3年生に進級。通常授業再開後、ウオーターボーイズ発表を熱望する部員が顧問に対して、会場の感染症対策を十分講じたうえで、入場者を水泳部保護者と川高生のみとする企画書を提出。

調整後、具体的な日程等を外部に公表しないこと、練習時間等について他の部活動と同様に部活動ガイドラインに沿って実施可能となりました。

準備開始。しかし、今年は登校すら困難な中で3年生に進級。通常授業再開後、ウオーターボーイズ発表を熱望する部員が顧問に対して、会場の感染症対策を十分講じたうえで、入場者を水泳部保護者と川高生のみとする企画書を提出。



人気のウオーターボーイズも在校生・保護者のみ参観での開催=9月5日

かわらず3年生が多く来場。例年はない男子生徒の声援で盛り上がり、盛況のうちに無事終了しました。

事後については、『川越高校新聞』には、「YouTubeにおいても水泳部が公演の動画をアップロードし、1か月で4・5万回再生を記録するなど、日本中に水泳部の雄姿が拡散され大きな感動を呼んだ」と記載されています。

共通テスト前日激励会

大学入試センター試験を直前に控えた3年生を激励するために応援部が中心となり始まった行事で、今年で11年目。当初は放課後に、くすのきの木で行っていましたが、その後昨年度まで、始業前に理科棟前庭で開催。

新たに大学入学共通テストになった今年は、始業前に密を避け校庭で実施。飯田敦校長が氷川神社のみくじ箋(せん)の内容に触れ、檄を飛ばしたの続き、学年主任が激励。

例年はこの後、応援団長指導のもと校歌・応援歌を熱唱していましたが、今年はい互いの健闘を誓い合いながら校歌1番のみの合唱。終了後、寒い中参加していた約200人の3年生は授業に向かいました。

※令和2年度、母校は学年制から単位制に移行中ですが、混乱を避けるため、表記は「学年」で統一しています。

特集1

初雁医学会と新型コロナウイルス

コロナ禍で各地区初雁会やさまざまなOB活動が制限・中止されるなか、社会貢献に尽力している初雁医学会の活躍を紹介します。

初雁医学会の新体制

川高を卒業した医療関係者で、診療・研究及びその発展と地域における健康増進を図ることを目的として発足した初雁医学会は、これまで5回、総会を開催してきました。ここでは新体制の紹介と、新型コロナウイルス感染症への対応を紹介します。松本雅彦氏と山岸業弘氏が執筆、廣澤が加筆しました。

ともかありませんでした。

しかし、留まっています。とはいかないため、各医療現場で頑張りつつ、主要役員が集まり、初雁医学会の新体制構築を決めました。名誉会長・関根迪弍(中42)、齋藤達(中42)

会長・小川郁男(高18)



(前列左から) 廣澤信作幹事、小川郁男会長、瀨川豊副会長、(後列左から) 野崎信行会計、松本雅彦幹事、山岸業弘監事

副会長・瀨川豊(高21) 幹事・廣澤信作(高21)、松本雅彦(高25) 会計・野崎信行(高28)、柴崎淳夫(高34) 監事・利根川洋二(高22)、山岸業弘(高27)

新型コロナウイルスの対応・提言

①新型コロナウイルスへの対応

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症とのツインドミックスが心配される時期を迎え、新型コロナウイルス感染症患者数や重症患者数は増加し、医療現場はかなりひっ迫しつつあります。その中、新型コロナウイルスに対するワクチンの接種が海外で始まるうとしています。今後も、刻々と状況が変わることをお断りしておきます。

新型コロナウイルス感染症は2019年末に中国の武漢で流行後に、1月には日本にも侵入し、2月に横浜港に入港したダイヤモンド・プリンセス号の船内で感染者が多数発生。国内の医療機関に搬送されたことは、日本中に大きなインパクトを与えました。

当初は感染スタイルも分からず、PCR検査も十分でなく、不安感が広がり、感染を恐れて医療機関を受診する患者さんが減少。特に目立ったのは小児科と耳鼻科で、休日や夜間の救急外来の患者さんも減りました。4月には緊急事態宣言も出され、7月の第3波では40歳台以上が多くなり、重症者数も増加しました。

感染経路は、飛沫(ひまつ)、エアロゾル(マイクロ飛沫)・接触がありますが、飛沫感染が主体で、飛沫を直接、口・鼻・目に浴びたり、飛沫に汚染された物に触れた手で、口・鼻・目などを触れると感染します。

接触感染の予防は手洗い、特に指先が重要で、マスクの着用は感染者の飛沫から身を守ります。また感染者がマスクを装着していれば飛沫量は低減します。潜伏期は1〜14日ですが、感染後5日程度で発症することが多く、発熱・咳・だるさ・息苦しさ・呼吸困難などの症状がみられ、味

覚・嗅覚障害など特異な症状もみられます。診断は、検体を鼻の奥(鼻咽頭拭い液)から綿棒で採取してのPCR検査が一般的です。医療従事者の感染リスクを減らす唾液のPCR検査もできます。15分程度で結果の判明する抗原検査では、検体は鼻咽頭拭い液の他に鼻腔拭い液も使えます。

治療は、季節性インフルエンザのように特效薬はなく、支持療法となります。無症状の人、症状の軽い軽症者は、ホテル療養や自宅療養となります。息苦しさがあり、肺炎を起こしている中等症Iと、その上に酸素飽和度が93%以下となり酸素吸入が必要になる中等症IIに対しては入院治療が行われます。重症となると、ICUへの入室や人工呼吸器の装着が必要になり、体外式膜型人工肺ECMOを装着することもあります。

感染を防ぐには、3密(密接・密集・密閉)の回避が必要です。日本への供給も伝えられるワクチンは、ウイルスのS蛋白をコードするRNA

ワクチンです。日本への供給も伝えられるワクチンは、ウイルスのS蛋白をコードするRNA



感染防止対策の下で行われているPCR検査=今年3月、狭山市の広沢内科クリニックで

やDNAを投与して人の体内に抗体を産生させるもので、効果に加えて副作用にも関心が持たれています。

②埼玉県・各市町村への協力
診察・検査・入院治療する医療者は、各方面において、全員がそれぞれの持ち場で

戦っているようです。ストレスも蓄積しますが、使命感から職務を全うしています。中国・欧州・アメリカからの帰国者や感染者との濃厚接触者の検査のため、「帰国者・接触者相談センター」が保健所に設置され、疑いのある患者は保健所からの指示で「帰国者・接触者外来」で検査を受けられるシステムができました。

その後、各医師会に発熱者相談センターやPCR検査センター(30カ所)が設置され、医療機関や医師は協力しています。

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は症状が似ており、廣澤は埼玉県医師会の副会長として、松本氏や野崎氏は郡市医師会長として、埼玉県内の各地域に、発熱患者がかりつけの診療所などで検査を受けられる「診療・検査医療

機関」(1千118カ所)の開設の制度設計に参加しています。

③新型コロナウイルス後の生活スタイルへの提言
12月現在、私たちはまだコロナ流行の中にいますが、早くポストコロナの時代が来ることを願って、ポストコロナの生活スタイルを提言させていただきます。

◆ポストコロナの医療
コロナ予防のための感染症対策が徹底されたことにより、全体の感染症が減り、また、少しぐらい熱が出ても日がたてば自然に解熱することがわかり、コロナが収束しても医療機関への受診減少は続くと思われる。健診・検診受診者もコロナ流行中は減りましたが、こちらは流行が収まれば元に戻るでしょう。

◆持続させることが必要な感染症対策
現代は、人の移動速度も距離も量も桁違いで、グローバル化や東京一極集中が進み、ウイルスに対して弱い弱な社会です。人口の3割の人々が首都圏に集中して暮らし、満員電車や外食・夜の飲み会・



集団接種の模擬訓練会場で廣澤信作幹事(右)と県ワクチンプロジェクト長の秋田氏=今年2月28日、戸田市の笹目コミュニティセンターで

カラオケ・大規模な宴会などコロナの感染を広げる場面は至る所にあります。感染防止のため、今後はマスクの着用はあたりまえになり、3密を避けた行動や飛沫防止などの対策は続けられるでしょう。このような良い習慣は残り、コロナ感染を100%防げなくともコロナ以外の感染症を減らすことに繋がります。

◆ポストコロナの社会活動や生活
新型コロナウイルス感染症のように社会全体に大きな影響を及ぼす出来事が起こった場合、これまでの常識が通用

しなくなり、このような変化に対応するためにニューノーマル(新常态)が生まれます。

働き方ではテレワークが恒常的になり、Web会議やWeb講演会などオンライン化が加速します。学校はオンライン授業、医療もオンライン診療が進むと思います。オンラインが拡大されれば一極集中は緩和され、満員電車も解消されます。

ネットショッピングも今よりもさらに拡大します。ただし、出勤・登校・実店舗での買い物・外食などがなくなるわけではなく、感染防止に努めつつ、人と人の温かみのあるふれあいは、今後ますます必要となります。

気兼ねなく国内や海外旅行に行ける日を願いつつ、新型コロナウイルスの情報は刻々と変化します。信頼できる情報にアクセスし、正しい対策をとっていただきたいと思います。

(令和2年12月執筆)

特集1

コロナ禍での充実した生き方

新型コロナウイルスまん延防止のため、外出や会食の自粛など、活動を自粛・制限せざるを得ない日々が続いています。そんな中、新たな事に挑戦するなど、充実した生き方を見つけているOBを紹介します。

与えられたチャンスに

尾崎勝美 (高11)



漫画家のヤマザキマリさんは自著「たちど

まっつて考える」(中公新書ラクレ)に書いています。コロナ禍の中で「他者との交流に制限がかかるパンデミックの時代に、私たちは自身と向き合い、自分をたくましくする良いきっかけを与えられているのかも知れません」と。

彼女の言葉を言い換えれば、与えられたチャンスを使う自分のために生かすかを考え、行動するのも一方法です。

私の趣味の一つは水彩画を描くこと。晴れた日には写生道具一式を自転車の荷台に載せて近くの風景を写生に行きます。コロナ感染者の拡大によって、これ幸いと専ら独り

作業の写生を楽しんでいます。

天気の良い日は、積んでおいた本の読書に早変わり。読みたいと思つたままの本は幾らでもあります。時間の有効活用は思うがままです。これも考えればコロナのお陰、と言つては言い過ぎでしょうか。でもマイナスもありました。剣道の稽古(けいこ)、美術館での絵画鑑賞は未だにままなりません。

コロナ禍での日常

荒井隆男 (高24)



このコロナ禍で私達の生活は大きく変化し

ました。私は趣味の美術鑑賞等で制約はありますが、生活に規律と目標を持つよう心掛けています。

一つは、会社人生を終えてから始めた毎朝の散歩に、昨年1月より「ゴミ拾い」を加えました。落ちているタバコの吸殻やマスクが気になり自宅から最寄り駅を回る1時間弱拾い歩いています。「隗より始めよ!」で雨やゴルフ日以外毎朝行い、その後のスクワットとアイアン素振りです。

1日にリズムと充実感・すがすがしさが生まれ、朝食も美味(うま)いです。

次にテーマを持つて学び、読書することです。昨年は『平成の経済』小峰隆夫著を読み、自分の銀行員時代と対比させ、失われた20年の認識を深めました。今年には格差や分断をテーマに、宇沢弘文からスティアグリッツに至る進歩的資本主義を勉強する予定です。

そして友人との交友です。

川高バスケット部の仲間とは、あのクスノキの下にすぐ戻れ、互いに元気をもらいます。銀行の友人達とは今はコロナ禍で自粛中ですが、いつも川越で集まり、近況や経済等を語り合います。3・11後始めた七福神巡りも今年で10回目。コロナの一日も早い終息も願

い、密を避け、希望を持ってお参りしようと思います。

COVID19に怯えていられない前期高齢者の定年転職

和田雄二 (高25)



2020年3月末、1985年の夏から35

年間の大学教員職を退職しました。4月からは、個人事業主(和田LABO)として研究コンサル受託、東工大特任教授として「マイクロ波化学」基礎研究の推進。加えて、阪大発ベンチャーマイクロ波化学株式会社フェローとして開発技術のプロセス実装事業の三足のわらじを履く仕事です。月々木曜は阪大で、金曜は東工大なので、武蔵野市の自宅に加えて、大阪大学近くに住居を借りました。

しかし、初っぱなから出鼻

をくじかれました。3月末、雪で高速道を使った車移動ができな、加えて4月7日から全国緊急事態宣言で、都道府県間の移動は控えよとのお達し。4・5月は、入社早々、東京の在宅勤務のオンライン

業務で対応。

いよいよ6月からは、毎週、東京―大阪の新幹線往復の生活を始めました。毎日阪大内の会社に通つて研究開発どっぷりですが、夜は、好きなメニューの自炊。電子レンジ・電気鍋・IH調理器を駆使して、どんなバラエティーの料理ができるか、挑戦失敗の繰り返しです。最初は、カレーが多かったのが、最近は和風ダシを使った煮込みヘシフトです。昨晩は鴨鍋にしました。

木曜深夜に東京に戻り、東工大勤務と家族(今は妻だけです)と楽しむ時間としていきます。こんな定年後の楽しみもあります。

またまた、非常事態宣言の今、東京―大阪往復を最小限にし、やむを得ない移動は最終便近くにする事で、密な人との接触はない状況をキープしています。

皆さまには、心からご安全をお祈りいたします。

昨日、高校大学通していっしょに学び、遊んだ大事な友の訃報に接しました。心からごめい福を祈りたいと思います。

会長挨拶

同窓会会長
菊池建太 (高17)

コロナ禍で総会など中止に

昨年2月から国内でも新型コロナウイルス感染症拡大が進み、昨年の同窓会総会も急きよ中止として、その後の役員会を以って総会に代えさせていただきました。その後も感染拡大が続き、各地区初雁会総会もすべて中止に。恒例の秋の散策会(在京主催)も、中止せざるをえませんでした。また、120周年記念事業で始めた「くすのき未来塾」も、残念ながら中止となりました。

本部の活動もできないため、活動費の一部を学校の感染防止対策に補助いたしました。このような時、同窓会が長年取り組んできた川高初雁の森づくり事業が、県の令和2年度彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」受賞という朗報が入りました。授賞式は2度予定されましたが、残念ながら中止になりました。森づくりはまだまだ続きますが、飯能初雁会をはじめ、多くの皆様のお陰と感謝申し上げます。

同窓会の活動は高齢者も多く、従来のような会の再開が難しい状況です。まず同窓会報を充実させることが、現段階でできることと思います。

また、オンラインでできることが多くなりました。「くすのき未来塾」も再開する方向で準備しています。同窓生には国や地域の多方面にわたる多くの方が活躍しています。このような人的資源を結びつけることも大切です。

母校のある川越市は令和4年に、市制100周年を迎えます。これまでも生徒たちは部活動などを通して地域貢献をしています。同窓会としても何ができるか考えたいと思っています。今後とも皆様方の同窓会に対します御支援、御協力をお願い申し上げます。挨拶いたします。

校長挨拶



校長 長谷川仁

着任にあたって

令和3年4月1日付で県立草加南高校校長より転任した長谷川仁です。歴史と伝統を

持ち、今なお埼玉県をリードする県立川越高校に校長としてご縁を頂きましたことは身に余る光栄と感しております。かつて、同じような歴史と伝統を持つ春日部高校の教頭時代、進学実績やSSHの取り組みで先を進む川越高校に一步でも二歩でも近づきたいとの強い思いを抱いておりました。その川越高校での機会を頂いたことにご縁も感じています。

AI革命、ソサエティ5.0といった言葉が踊り、社会的構造も含め大きな変革が起これ、先が見通せない時代が来ると言われた矢先、新型コロナウイルス感染症により、一層時代は混迷を深めています。「新しい生活様式」が唱えられ、いつ収まるかも知れぬ中、教育界では自ら課題を発見し、自ら学習し、課題を解決する力の育成が必要とされています。

創立以来の「自主自立」の精神の下、高い志をたて、その実現に挑んでいる川高生は、次代を切り開くリーダーになってくれる存在です。その学習環境の充実のため、進

学型単位制を導入し、今年度が完成の年です。これまでの歴史と伝統を大切に、時代に合った学習環境を整備し、高い志の実現をサポートしていくことが今の川高に携わる我々教職員の仕事と考えます。その先頭に立ち、その使命を果たしていきたいと思えます。微力ではありますが、川越高校の一層の発展のため全力を尽くしたいと考えております。同窓会長様はじめ、会員の皆様のお力添えを頂ければ幸いです。よろしくお願いいたします。

退任にあたって
平成30年4月1日に赴任以来、はや3年の月日が経ちました。本校の輝かしい歴史と伝統・文武にわたる実績、グローバル社会におけるリーダーとしての人材育成というミッションを追究すべく、全力で走ってきました。



校長 飯田敦

として高校29回卒の梶田隆章・東大卓越教授からご講演を頂きました。

進学型単位制の教育体制の効果、生徒と教員が「授業で勝負」プラス自主ゼミ等で徹底的に鍛えた成果、部活動後の勉強時間確保の要望に応えて図書館及びセミナー室の開館時間を延長した効果などにより、進学実績も大幅に向上。令和2年春には、現役の国公立大学合格者数が115人(現役生の約3人に1人)となりました。

「川高サイエンス探究」や「グローバルリーダーシッププログラム」の両事業は、生徒にとつて将来の生き方を真剣に考える絶好の機会でありますが、これらの実施及び進路指導関係においても同窓会からご支援を賜っており、重ねて感謝申し上げます。

令和2年度はコロナの影響で学校行事等に影響が出るなど、多くの困難を経験した年度でしたが、生徒は「ピンチはチャンス」の心意気で頑張っています。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

特集2

「川高初雁の森」が

彩の国埼玉
環境大賞

「優秀賞」受賞

本校同窓会の地域貢献事業の一つである「川高初雁の森」活動が、令和2年度彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」を受賞しました。今回の受賞は、コロナ禍で本校同窓会の諸活動が制限され、会員相互の情報交換がこれまでのように行われる機会がないなかで、大変うれしいニュースとなりました。

本校同窓会は平成24年に埼玉
玉県・飯能市と県森林(もり)
づくり協定を締結し、飯能市
下名栗地内にある名栗湖畔の
市有林で「川高初雁の森」活
動を開始。この活動は、「母
校の校歌にうたわれている入
間川の源の地で悠久の森づく
りを行う」ことを目的にした
同窓会の地域貢献事業。これ
まで同窓生と在校生が一緒
になり、地道な活動を続けてい
ます。

「彩の国埼玉環境大賞」は、
環境保全に関して他の模範と
なる優れた取組をしている個人
・団体・事業者を知事が表彰
するもの。飯能市の推薦で
今回初めて応募し、「優秀賞」
を受賞。今回は県内で56組が
応募し、大賞2組・優秀賞9



表彰状と(左から)市川事業部
会長、菊池同窓会長、飯田校長

当初、令和3年2月16日に
知事公館で表彰式が予定され
ていましたが、新型コロナウイルス
感染拡大に伴う緊急事
態宣言が発令されたため、3



在校生と一緒に、急な斜面での作業

月9日に延期。さらに同措置
が延長されたことにより、知
事からの直接表彰は中止。表
彰状などは同窓会事務局に送
付となりました。その後、「川
高初雁の森」活動には同窓生
のほか在校生も参加している
ことから、菊池建太同窓会長
と市川章弘事業部会長が校長
室を訪れ、今回の受賞につい
て報告しました(写真上)。

受賞に当たって

「川高初雁の森」事業部会長

市川章弘(高7)

同窓会の地域貢献事業の一
環として県の進めている「県
民一人一本植樹運動」によ
る「森林(もり)づくり」に
協力加盟することになりました

た。

平成24年7
月、県と飯能市・
同窓会の3者で
「森林づくり協
定」を締結し、
活動を開始。

初回の植樹祭に
は県知事・飯能
市長・県議・市
議・校長を含め、
在校生・同窓生
など120人が
参加し、盛大に
行われました。

植樹祭は在校
生の参加を得て
年1回、下草刈
作業は事業部役
員20数人で年2
回実施。地域柄、
獣害を防ぐため全域を防護
ネットに囲み、植栽樹も個々
に保護しています。

今後の作業は、植栽樹の手
入れ・枯れ木の植替え等、育
樹が主体となります。在校生
と交流を図りながら進めてい
く予定です。水源涵養や地球
環境の保全に少なからず寄与
できればと、役員一同頑張っ
ており末長く関っていく所存



作業を終えて、参加者全員で記念撮影=2018年9月24日、第7回植樹祭で

です。

この度の受賞は、関係各位
のご指導ご理解ご協力の賜と
感謝・ご報告を申し上げ、ま
すますの励みといたします。

「川高初雁の森」の概況

「川高初雁の森」は、名栗
湖左岸に位置しています。両
脇は急な法面ですが、湖畔近
くの道路から、鹿防護ネット



名栗湖畔にある「川高初雁の森」の活動拠点 (赤枠内) = 飯能市提供

そこで、森林づくりの活動当初より、多くの観光客やハイカーの目を楽しませる花木を中心とした樹木を選定。平成24年から令和元年度までの8年間、活動年度ごとに計画的に植樹個所を決め、これまでに、四季折々の変化を感じることもできる木々など広葉樹を中心に、ヤマザクラ・イロハモミジ・クワイバヤなど、約1600本を植樹してきました(下図)。

で囲まれている入り口の扉を開けハイキング道を登ると、そのまま稜線に通じています。途中、中腹の見晴らしウッドデッキからは南西の眼下に

名栗湖が一望できます。

その稜線には蔵山に通じるハイキング道が整備されており、木々に覆われている稜線を歩くハイカーが「川高

初雁の森」内に入り、下って行くと突然視界が開け、名栗湖が一望できます。敷地が2.5ヘクタールある「川高初雁の森」は、このような口ケーションにあります。

そこで、森林づくりの活動当初より、多くの観光客やハイカーの目を楽しませる花木を中心とした樹木を選定。平成24年から令和元年度までの8年間、活動年度ごとに計画的に植樹個所を決め、これまでに、四季折々の変化を感じることもできる木々など広葉樹を中心に、ヤマザクラ・イロハモミジ・クワイバヤなど、約1600本を植樹してきました(下図)。

令和元年度は、敷地内のハイキング道の整備に主眼を置き、入口から中腹のウッドデッキまでの道沿いにスイセンの球根を植え、足元にウッドチップを敷設したりしてきました。

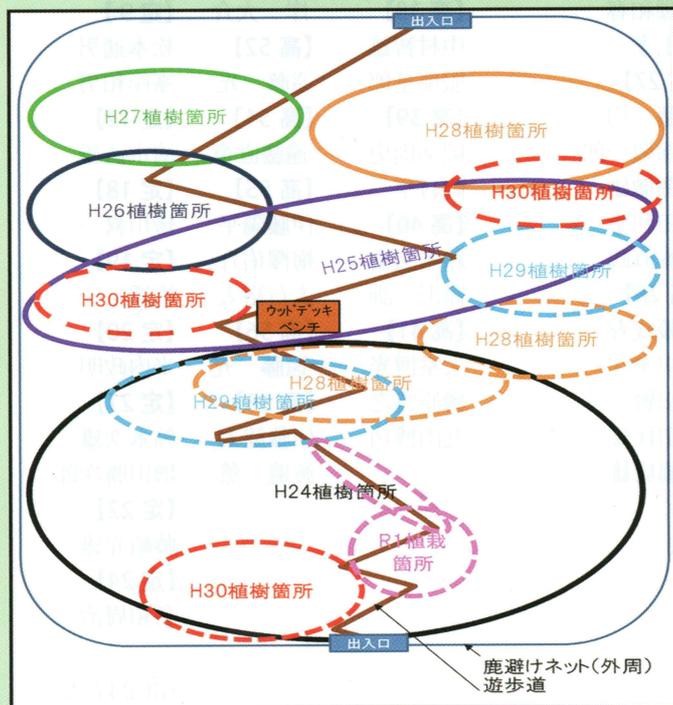
令和2年度はコロナ禍で、毎年続けてきた同窓生と在校生による森林づくり活動は中止を余儀なくされました。本年度は9月26日(日)に植樹祭を予定しており、多くの同窓生に参加を募り在校生と共に、これまで植樹してきた木々の育樹などの活動を計画しています。

「川高初雁の森」事業 活動実績

(平成24年度~令和2年度 9年間累計)

植樹料寄附者 (重複者あり)	4,065人
植樹料 (寄附金)	20,250,964円
支出事業費、管理費	17,356,401円
植樹料残高 (事業予備費)	2,894,563円

埼玉県立川越高等学校同窓会 初雁の森 活動記録



樹種	扱い	本数(本)	樹高(m)	シカ防護ネット	再植樹	備考
クスノキ	新	5	2	○	—	初年度記念植樹
ミツバツツジ	新	60	0.5	なし	—	
ヤマアジサイ	新	60	0.5	なし	—	
ヤマザクラ	新	90	1.5	○	H28	
イロハモミジ	新	40	1	○	H28	
イタヤカエデ	新	40	1	○	H28	
ホオノキ	新	50	1	なし	—	
小計		345				
ヤマザクラ	新	50	2.5	○	—	
イロハモミジ	新	150	1	なし	H29	
ホオノキ	新	50	1	なし	—	
ズミ	新	50	0.5	なし	H29	
ガマズミ	新	50	0.5	なし	H29	
小計		350				
サルスベリ	新	30	1	なし	—	
ナツツバキ	新	40	1	なし	—	
ナンテン	新	30	0.5	なし	—	
小計		100				
フユザクラ	新	120	2	○	—	
ヤマツツジ	新	30	0.5	なし	—	
ナンテン	新	30	0.5	なし	—	
小計		180				
ナツツバキ	新	30	1	○	—	
ヤマザクラ	新	30	1	○	—	
サザンカ	新	30	1	○	—	
クワイバヤ	再	40	1.5	○	H29	
モミジ	再	20	1.5	○	—	
シダレザクラ	新	1	2.5	○	—	5周年記念植樹
小計		151				
ヤマザクラ	再	100	1.5	○	—	
ハナズオウ	再	50	1.0	○	—	
ハギ	再	100	0.3	○	—	
小計		260				
ツバキ	再	50	1.0	○	—	
サザンカ	再	12	1.0	○	—	
サクラ	再	12	1.5	○	—	
ウツギ	再	8	1.5	○	—	
ハナモモ	再	6	1.5	○	—	
スイセン	再	100	球根	×	—	
小計		188				
スイセン	新	200	球根	×	—	
小計		200				
合計		1,774				

地区初雁会 新会長紹介

東松山初雁会

大塚基司(高19)



令和元年の東松山初雁会23回総会で皆様のご推挙を賜り、第四代会長をお引き受けすることになりました。

ここ10年間、東松山初雁会報「奮え友よ」の編集に関わってきました。総会や新年会での講演記録や先輩諸兄の寄稿文の編集などを通して、今さらながら初雁会は多士済済であることを実感していました。「蓬(よもぎ)も麻中(まぢゅう)に生ずれば扶(たす)けずして直し」とか、高く麻のように伸びている諸賢に感化され、自らも伸びようとす

ただくことを決意しました。

同窓会の意義について自問するとき、私は、論語の冒頭に述べられている「朋あり遠方より来たる、亦た樂しからずや」を想起いたします。東松山初雁会の、朋との再会の場、語らいの場としてのさらなる充実を目指して微力ながら努めてまいりたいと存じます。

令和2年度は、コロナ禍のため、総会や新春講演会など計画した諸事業を中止せざるを得ない状況で今日に至っています。コロナ禍が収束し、諸事業が復活して、皆様との再会を祈念しております。

朝霞初雁会

會根田満康(高19)



前会長比留間明氏(高18)の急逝により、

急きよ会長となりました。昨年、新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令され、外出の自粛や市民生活・社会活動が制限される中「臨時役員会」を開催し、「書面総会」により就任した次第です。

例年は、総会・懇親会を行

い会員相互の親睦を深めております。また、近隣3市(新座・志木・和光)の初雁会総会に出席し情報交換を行い、活動の参考にしております。

現在、新規会員の加入が思うように進まない状況です。朝霞初雁会の会員の増員を図ることや活動内容を工夫するなど、朝霞初雁会の活性化が図れるよう取り組んでいきたいと思います。

新座初雁会

山崎糧平(高26)



一昨年、長年ご活躍いただいた前会長並木利志和氏(中44)が逝去され、本年度から会長をお引き

受けすることとなりました。長きにわたり本会の発展にご尽力を頂きました前会長に、改めて深く感謝を申し上げますとともに、慎んで哀悼の意を表します。諸先輩方が活躍されている母校の地区初雁会会長に就任することは、光栄であるとともにその重責に身の引き締まる思いです。前会長が築かれ

た本会を更に盛り上げていくため、微力ではありますが全力で取り組む所存です。

昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、残念ですが今年度の行事はすべて中止・先送りとなってしまいました。我が母校も令和元年に創立120周年を迎え、令和のスタートとともに新たな幕を開けました。

ウィズコロナ、ポストコロナの新時代に向けて、同窓会の在り方もいま一度見直し、新しい時代に合った取組を進めたいと思っております。今年度から新たにスタートした新役員体制の下、会員の皆さんと協力しながら、これからの時代に相応しい新座初雁会にしてまいりたいと存じます。皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

川越初雁会の活動

コロナ禍で地区初雁会の活動も中止・延期を余儀なくされる中、川越初雁会の活動を紹介いたします。

7月18日「拡大役員会」で書面での総会開催を承認(うち抜粋) 第二号議案

・感染に最大限の注意を払いつつ、できるだけ活動を再開。

・リモート技術活用を検討。
8月1日「会報第17号発行」
8月3日「会員宛総会議案郵送」(会報・総会議案可否

はがき同封、8月末日返送期限

9月初旬「賛成多数で総会議案承認」HPで報告
10月3日「秋季散策会(17人参加)」

明治神宮の森散策(予定短縮)。懇親会中止
10月14日「定例ゴルフコンペ(32人参加)」懇親会中止

令和3年2月1日「会報第18号発行」

3月20日「春の講演会」(緊急事態宣言の再延長決定直後に急きよ中止連絡)

第20回「川高くすの木
俳句大会」のご案内

本年も次のとおり開催します
ので、母校関係者はもとよ
り、幅広い方々が参加される
ようお願いいたします。

日時 8月28日(土)

受付 正午より

句会 午後1時〜5時

会場 川高図書館2階

セミナー室

投句 夏・秋 雑詠3句

投句先 350-0053

川越市郭町2-6

県立川越高校同窓会

投句締め切り 8月7日(土)

当日消印有効

会費 投句3句につき1千円

郵便小為替にて

在校生は無料

選者 齊藤弘行氏(高3)

元東洋大学教授

本阿弥秀雄氏(高18)

本阿弥書店顧問

第19回俳句大会作品集より

第19回俳句大会は、コロナ
禍のため、紙上句会となりま
したが、卒業生や母校関係
者など延べ24人、在校生は

309人が応募しました。

『卒業生の部』

余生を鳴き尽くさむと法師蟬

村田のぼる(中41)

夏風や黒雲輝かす陽の光

江原 襄(高3)

象潟に震災あとのねぶの花

齊藤弘行(高3)

新樹光そろひて眠る力石

宮崎見昭(高3)

あの頃は夢大かりし楠若葉

中村誠佑(高11)

サングラスかくも達者な嘘に

岡部つねを(高15)

竹皮を脱ぐ決断に迷ひなし

小林幸二(高17)

白靴に心おどらせ切符買ふ

関口高栄(高17)

薔薇一輪は全てなり梅雨ごも

大嶋文昭(高20)

断らず断る術や秋扇

勝浦敏幸(高21)

迅雷や宿世の縁のなすび食む

栗原由郎(高21)

夏草や雨ふり陽出て輝きぬ

一瀬 要(高23)

万緑を紙ヒコークキの抜けてく

市川英一(高23)

夏雲や戦死の伯父の文机

石田浩二郎(高24)

『在校生の部』

(天)

部活後の夕焼け空と時の鐘

外山咲太(1・B)

(地)

風になびけ金の稲穂のたてが

みよ 井佐恭一(1・D)

(人)

駅前の夏服の君とすれ違う

北澤 樹(2・E)

口惜しい戦わずして終わる夏

小河大将(1・H)

(秀逸)

静かなるクラスにひびくせみ

の声 田中悠一朗(1・F)

音楽室我らの代りに蝉唄う

中原貞大(1・A)

飼い猫が蝙蝠啜えて帰宅した

福井奨真(1・A)

複素数ノートに残る汗の染み

新井望斗(1・B)

せせらぎの音に混じりて蛍飛

ぶ 宮川莉緒(1・H)

嶺の雲明日の自分は我次第

岩崎一樹(1・E)

ラ変動詞ありをりはべりいま

は秋 飯野聡真(1・F)

プール後の眠気と戦うコミュ

表現 飛岡壯太(1・E)

汗流しマスク濡らす登下校

井上雅貴(1・I)

シャツの背にリュックの形に

染まる汗 小椋黎音(1・I)

羅生門柱に泊まるきりぎりす

黒田智礼(1・I)

『関係者の部』

かぐや姫の忘れ物なり月見草

安部衣世

今日の身のありて幸せ朝の虹

有山光子

星合や親子を阻む県境

安斉和子

旧家めく宿に憩ひて花蘇鉄

大原絹子

回向もじ天下泰平昼寝覚さめ

金子富士夫

アイゼンに一つの恋のあつた

小峯知治

夏 豪雨避け土管の中の雨蛙

坂本むつ子

空蟬に光の温みありにけり

関口幹雄

廃校の百葉箱や青葉風

内藤紀子

一心に魚にならむとひきがえ

橋本良子

月例会のお知らせ

年1回の俳句大会のほか、

毎月第一土曜日の午後1時よ

り、川高図書館2階同窓会室

で句会を開催しています。

毎回、大会選者の本阿弥秀

雄氏に選句と添削をお願いし

ています。

「くすの木囲碁クラブ」
の活動

令和2年度は教育活動に支
障の出ることのないよう母校
セミナー室での活動中止。

コロナ禍の中、6月19日

(金)川越中央公民館で幹事

会を行い、新役員を選出。

副会長 吉田 正(高10)

幹事 橋本光男(高18)

事務局 山川 均(高18)

7月25日(土) ウェスタ川

越会議室

で定例会

(11人参

加)。

令和3年

3月27日

(土)中

央公民館

で定例会

(15人参

加)。

感染防止

に十分配

慮し実施。

当クラブで囲碁を介した交

流を希望する同窓生は同窓会

事務局までご連絡下さい。



川越高校 サイエンス探究事業

「川高サイエンス探究事業」

は、国際的に活躍する科学系人材の育成と新学習指導要領への対応を目的とし、平成29年度から始まった本校独自の事業です。11年間指定されたスーパーサイエンスハイスクール事業の後継事業で、5つの柱からなります。

- ① 授業サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ
 - ② 研究機関連携講座
 - ③ 表現・発表能力育成講座
 - ④ 科学コンテスト・学会発表
 - ⑤ 地域連携 (科学教室など)
- 同窓会・後援会のご支援を受け実施しています。

【今年度の成果】

全国大会出場!

「物理チャレンジ2020」に、3年生の遠藤成将君 (左

写真右)・齋藤善仁君 (同左) が出場、奨励賞を受賞。全国大会出場決定!

物理部ロボカップ班3チー

ムが「ロボカップジュニアジャパンオープン2020」の出場を決定しました (中央写真)。

大会は4月24日から行われる予定でしたが、中止となりまし



表に選ばれました。(左下写真) サイエンス探究事業1年間の取り組み

○サイエンス探究選択者

1年生81人・2年生49人・3年生42人が選択しました。

授業「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ」は総合的な探究の時間の選択科目

で、次の5つから選びます。

- A 地球環境
- B 生命と物質
- C 環境分析と物質の変化
- D 物質とテクノロジー
- E 研究入門

昨年年度から「総合的探究の時間」が始まり、全生徒が人文・社会・自然・科学技術・工学全分野での課題研究と発表に取り組んでいます。

5月 生徒研究発表会 中止

文系・理系分野59作品の研究を発表する予定でした。10月

○日本学生科学賞及び全国高等学校総合文化祭埼玉県代表作品選考会

物理5作品・生物5作品・

地学1作品を出品しました。「風洞実験装置における縮流の性質」と「ペットボトルロケットの軌道解析」が優秀賞を受賞しました。11月

○「素粒子と宇宙の謎に挑戦する最先端科学」

東京大学教授 山下了先生と大学院生5人により、ご講演と実験を行っていただきました。

○全校講演会

「海の資源〜画期的な海底鉱物資源の発見を目指して〜」

をテーマに、加藤泰浩・東京大学大学院教授にオンラインでご講演いただきました。

令和3年度取り組み予定

昨年度はコロナウイルス感染症のため、例年の事業の6割が中止となりました。

今年度は途切れてしまった流れを繋ぎ直すとともに、事業がより生徒のためになるよう改善していく予定です。

○生徒研究発表会

5月8日(土)にサイエンス探究・総合探究合同発表会

として、約70作品の研究発表を行います。川高サイエンス探究事業スーパーバイザー、梶田隆章・東京大学卓越教授・宇宙線研究所長、加賀屋悟・理化学研究所員、福田直・武蔵野学院大学教授から事業のご助言を頂く予定です。

謝辞 SSH事業

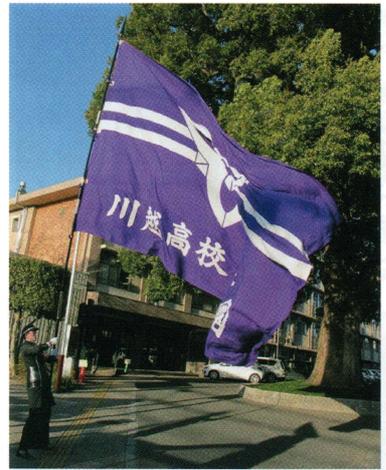
に引き続き「川高サイエンス探究事業」への同窓会の多大なるご支援に深く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。

(文責 阿部宏)



サイエンス探究/物理部の「風洞実験装置における縮流部の性質」が奨励賞を受賞し、来年度の全国総合文化祭・自然科学部門埼玉県代





応援部が大団旗を新調

母校応援部が、令和2年11月に大団旗を新調しました。

現在使用している2本の大団旗のうちの一本が老朽化。OBをはじめとする関係者や支援を希望する方々の寄附により完成しました。

新大団旗は、最高級の「富士絹製・京友禅染め・絹の飾りひも付き」の豪華なもので、東京六大学応援団御用達である東京日本橋にある老舗旗店に製作を依頼したものです。

応援部顧問によると、この大団旗は「儀式」「演技発表会」「日輪の下に」(埼玉六校応援団連盟「浦和・熊谷・川越・春日部・松山・不動岡」による演舞発表会)限定使用とし、未長く大切にしていける特別な旗にすることです。

本校の応援部は儀式等主要な学校行事での活動以外に、同窓会の諸行事にも欠かすことのできない存在。そこで、同窓会では母校教育活動支援の一環として、今回の大団旗新調にあたり、その費用の一部を補助しました。

退職挨拶



水村英明(高31)

13年間、お世話になりました。38年の教員生活の最後を、母校で終えられたことを大変うれしく感じています。

高校入学が1976年。吹奏楽部員として多くの時間を過ごした生徒ホールは、今年耐震工事が完成しました。当時は3学年で130人を超す部員があり、定期演奏会前には揃って合奏。今考えると、よく全員入ったものだと思います。教員となつて赴任し顧問として携わるようになって、改めて当時の顧問・松本成二先生のすごさを感じました。吹奏楽部のもう一つの

ホームグラウンド・市民会館大ホールは平成27年に閉館しましたが、その前に1度、松本先生に定期演奏会を見に来ていただけたことも思い出されます。

人事異動

◆退職

校長 飯田 敦

川越初雁高校校長(再任用)

教諭 山崎 真良

聖学院大学

水村 英明

浦和高校(再任用)

澤野 一樹

松山女子高校

(実習教員・新採用)

高辻 洋明

県立学校人事課

大門 健身

市立川越高校

明戸 直紀

吹上秋桜高校(定)

事務部長 渡辺 智司

主任 吉原 弘実

浦和高校

川越女子高校

◆任期満了

二本松 敬太

所沢北高校(再任用)

吉田 語

さまざまな“想定外”に見舞われた13年でした。延び延びになっていく同級生との還暦慰労会が、早く開けるような状況になってほしいと心から願っています。

◆新採用

教諭 内田 幸一

齊藤 峰希

鈴木 悠賀

加藤 武司

内田勝正

飯島 研一

鴻巣高校

川越女子高校

浦和工業高校

長谷川 仁

草加南高校 校長

中里 和義

滑川総合高校

清水 理江

入間向陽高校

柳澤 裕司

所沢北高校

非常勤講師 佐藤 安孝

越ヶ谷高校事務部長

主任専門員 原口 一

豊岡高校

小鹿野高校・富士見高校

大宮工業高校

高木 裕也

狭山台中学校

森田 怜

滑川総合高校

令和2年度事業報告(案)

- 4月24日(金) 『川高同窓會報』(第76号)発行
- 5月31日(日) 同窓会総会・記念講演会・懇親会 中止
- 6月14日(日) 第9回「川高初雁の森」植樹祭 中止
- 6月19日(金) くすの木囲碁クラブ幹事会(校外)
- 7月11日(土) 同窓会臨時役員会(体育館棟2階研修室)
- 7月25日(土) くすの木囲碁クラブ例会(校外)
- 8月29日(土) 第19回「川高くすの木俳句大会」(紙上開催)
- 9月25日(金) 「川高初雁の森」下刈作 業止
- 10月14日(水) 第1回同窓会報編集委員会
(少人数)(事務局隣接資料室3)
- 10月中旬 4校親睦囲碁大会 中止
- 10月30日(金) 第2回同窓会報編集委員会
(少人数)(事務局隣接資料室3)
- 11月14日(土) 秋季散策会(在京初雁会) 中止
- 3月22日(月) 会計監査(事務局隣接資料室3)
- 3月27日(土) 第3回同窓会報編集委員会(事務局隣接資料室3)
くすの木囲碁クラブ例会(校外)
- 3月28日(日) 同窓会役員会(セミナー室)

令和3年度事業計画(案)

- 4月24日(土) 『川高同窓會報』(第77号)発行
- 5月29日(土) くすの木囲碁クラブ例会
- 5月30日(日) 同窓会総会・記念講演会(山野清二郎氏)
- 6月上・中旬 「川高初雁の森」下刈作 業
- 8月28日(土) 第20回「川高くすの木俳句大会」
- 9月中旬以降 同窓会報編集委員会(～令和4年3月まで)
- 9月26日(日) 第9回「川高初雁の森」植樹祭
- 10月16日(土) 第1回くすのき未来塾
- 10月中旬 4校(浦和高、熊谷高、春日部高、川越高)同窓会
親睦囲碁大会
- 11月3日(水) 秋季散策会(在京初雁会)国立競技場周辺散策
- 12月11日(土) 第2回くすのき未来塾
- 3月12日(土) 第3回くすのき未来塾
- 3月下旬 会計監査・同窓会役員会
- * 各地区初雁会：定例総会、記念講演会、懇親会等
- * くすの木句会 毎月第一土曜日(午後1時～)
- * くすの木囲碁クラブ 奇数月最終土曜日

2021年度 大学等入試合格状況一覧

3月31日現在

国立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
北海道大	7	(6)	7	(6)
弘前大	1	(1)	1	(1)
岩手大	1	(0)	1	(0)
東北大	12	(6)	12	(6)
茨城大	3	(2)	1	(1)
筑波大	6	(3)	6	(3)
群馬大	1	(1)	0	(0)
埼玉大	22	(15)	15	(9)
千葉大	10	(9)	9	(8)
東京海洋大	4	(4)	4	(4)
電気通信大	5	(5)	5	(5)
東京大	4	(1)	3	(1)
東京外大	3	(3)	3	(3)
東京学芸大	9	(5)	8	(4)
東京工業大	10	(4)	10	(4)
東京農工大	17	(11)	17	(11)
一橋大	8	(5)	8	(5)
横浜国立大	12	(7)	6	(4)
新潟大	1	(1)	1	(1)
山梨大	2	(1)	2	(1)
信州大	6	(5)	5	(5)
岐阜大	1	(0)	1	(0)
静岡大	4	(2)	4	(2)
名古屋大	2	(0)	2	(0)
京都大	5	(2)	5	(2)
大阪大	4	(1)	4	(1)
鳥取大	2	(0)	2	(0)
愛媛大	1	(1)	1	(1)
九州大	2	(1)	2	(1)
琉球大	1	(0)	0	(0)
計	166	(102)	145	(89)

私立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
北海道学園大	1	(0)	0	(0)
北海道医療大	1	(0)	0	(0)
北海道科学大	1	(0)	0	(0)
酪農学園大	2	(0)	0	(0)
国際医療福祉大	2	(0)	1	(0)
埼玉医大	2	(1)	0	(0)
埼玉工大	1	(1)	0	(0)
東京国際大	1	(1)	0	(0)
獨協大	6	(3)	3	(1)
日本工大	4	(2)	0	(0)
文教大	9	(3)	4	(2)
文京学院大	1	(1)	0	(0)
目白大	1	(1)	0	(0)
千葉工大	1	(1)	1	(1)
青山学院大	19	(11)	5	(4)
亜細亜大	1	(0)	0	(0)
学習院大	18	(9)	4	(3)
北里大	11	(5)	1	(1)
杏林大	2	(1)	0	(0)
慶応大	51	(28)	19	(15)
工学院大	6	(3)	1	(0)
国学院大	10	(5)	0	(0)
国土館大	2	(1)	0	(0)
駒澤大	16	(12)	2	(2)
芝浦工大	57	(35)	7	(5)
順天堂大	1	(0)	0	(0)
上智大	24	(14)	5	(2)
昭和大	1	(0)	0	(0)
成蹊大	20	(14)	2	(2)
成城大	7	(3)	0	(0)
専修大	11	(5)	2	(0)
大正大	1	(0)	0	(0)
大東文化大	11	(6)	1	(1)
拓殖大	5	(0)	1	(0)
玉川大	2	(2)	1	(1)
中央大	65	(42)	14	(9)
帝京大	3	(2)	0	(0)
東海大	5	(4)	2	(1)
東京経大	2	(0)	0	(0)
東京工科大	1	(1)	0	(0)
東京慈恵会医大	1	(0)	0	(0)

東京電機大	20	(12)	2	(2)
東京農大	14	(8)	1	(0)
東京薬大	2	(0)	1	(0)
東京理大	107	(59)	15	(14)
東洋大	49	(24)	2	(1)
日本大	49	(25)	4	(2)
日本獣医生命大	1	(0)	0	(0)
日本体育大	2	(0)	1	(0)
法政大	76	(38)	6	(5)
武蔵大	6	(5)	1	(0)
東京都市大	5	(2)	1	(0)
明治大	166	(103)	40	(29)
明治学院大	3	(2)	0	(0)
明治薬大	4	(4)	1	(1)
明星大	6	(1)	1	(1)
立教大	36	(23)	4	(1)
立正大	3	(1)	1	(1)
早稲田大	118	(72)	49	(37)
麻布大	2	(0)	0	(0)
神奈川大	1	(1)	0	(0)
同志社大	2	(1)	2	(1)
立命館大	2	(1)	0	(0)
大阪歯科大学	1	(0)	0	(0)
近畿大	2	(1)	0	(0)
関西学院大	3	(3)	1	(1)
立命館アジア大	1	(1)	1	(1)
計	1067	(604)	210	(147)

公立	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
高崎経済大	1	(1)	1	(1)
東京都立大	11	(10)	10	(9)
横浜国立大	1	(1)	0	(0)
新潟県立大	1	(1)	0	(0)
静岡県立大	1	(1)	0	(0)
京都府立医大	1	(0)	1	(0)
奈良県立医大	1	(0)	1	(0)
計	17	(14)	13	(10)

大学校	合格		入学	
	総計	(現役)	総計	(現役)
防衛大学校	2	(1)	1	(0)
計	2	(1)	1	(0)

- 部活動の主な活躍 (敬称略)**
- **音楽部**
 - 埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞
 - 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト 金賞
 - **物理部**
 - ロボカップジュニア 2021 埼玉ブロック大会ワールドリーグレスキューメイズ 優勝
 - 同サッカーライトウェイト 3位
 - **野球部**
 - 県高校文化祭自然科学部門 奨励賞Ⅱ 菅沼佳祐 (2D) 新井慎之介 (2F) 松島一樹 (2F)
 - ロボカップジュニア 日本大会 出場
 - **剣道部**
 - 関東大会県予選男子個人戦 優勝、5位・ベスト16各1人
 - **弓道部**
 - 県学校総合体育大会 (剣道) ブロック優勝、県ベスト8以上進出
 - **硬式テニス部**
 - 新人戦県大会団体 準優勝
 - 東日本大会 出場資格獲得 (コロナにより大会中止)
 - 県大会出場 (団体)
 - **吹奏楽部**
 - 県アンサンブルコンテスト 銀賞 (クラリネット四重奏・打楽器四重奏)
 - **軟式庭球部**
 - 県高校生インドア大会団体戦 ベスト8
 - 新人大会県大会団体戦 ベスト8
 - **籠球部**
 - 県予選出場
 - **蹴球部**
 - 高校選手権 ベスト
 - **新新聞部**
 - 県学校新聞コンクール 優秀賞・埼玉新聞社賞
 - **美術部**
 - 県高校美術展 優秀賞Ⅱ 山口琢真 (1F)
 - **生物部**
 - 日本学生科学賞 優秀賞

「くすのき未来塾」が再開へ

コロナ禍で開塾初年度第5回講座(令和2年3月14日)を急ぎよ中止し、そのまま令和2年度も中止を余儀なくされていた「くすのき未来塾」を本年度後半より再開します。

「くすのき未来塾」は、母

校創立120周年(令和元年度)記念事業の柱の一つとして、同年度より実施した地元地域への貢献事業。この事業は、国の内外の幅広い分野において活躍する同窓会員が講師となり、未来を担う地元の子どもたちを育てていくことを目指しています。

再開に当たり、同事業実施運営委員会では、母校セミナー室を会場にすることを前提に、新たにオンライン学習システムの活用や、密を避けた校外での学習なども視野に入れた準備に取り組んでいます。地元の小中学生や保護者に安心して受講していただけるよう、新型コロナウイルス感染症対策にも万全を期したうえで事業を再開します。

本年度の予定は次のとおりです。

第1回講座 10月16日(土)

講座テーマ『めざせPCRマスター・PCR検査って何を



公益財団法人 東京東 京都医学 総合研究所 再生医療プロジェクト プロジェクトリーダー

第2回講座 12月11日(土)

講座テーマ『東京スカイツリー、高さへの挑戦』
講師 吉野繁氏(高31)



日建設計 デザイン フェロー

第3回講座 令和4年3月12日(土)

講座テーマ『蔵の町のなりたちをさぐる…蔵造りってなあに? どうやって守り伝えるの?』
講師 荒牧澄多氏(高27)



元川越市 職員・NPO法人 全国町並

み保存連盟常任理事・NPO 法人川越蔵の会理事

なお、令和4年度以降の講師を募集しています。詳細については、同窓会事務局までお問い合わせください。

定例役員会を開催

令和3年3月28日(日)、母校セミナー室で定例役員会が開かれました。当日は密を避け、換気にも十分留意し、会を進行しました。菊池同窓会長の挨拶後、飯田校長から今春の大学入試合格状況を交えた教育活動報告があり、その後、会則に従い、事業計画、会計(15頁参照)について審議。

次に、会務の重要事項として、令和3年度末に10年間



の活動を終える「川高初雁の森」事業の、令和4年度以降の活動継続を審議。これらの審議を含め、令和3年度総会での議事内容がすべて承認されました。

さらに、新型コロナウイルスの感染状況が予断を許さないこともあり、総会・記念講演(20頁参照)に続いて例年行われている懇親会を、今年

は中止することとしました。

最後に菊池会長から、「(一)緊急事態宣言が出され、またそれに準ずる状況で、総会の開催が困難と判断した場合に速やかにホームページで開催中止を連絡。(二)その場合には、今回の定例役員会での決定を以て総会に代える」との提案があり、全会一致で承認されました。

秋季散策会

2021年度のご案内

在京初雁会

本年度も、東京オリピックの中心舞台となる会場周辺の散策を計画しています。奮って御参加下さい。

日付 11月3日(水)

集合 午前9時30分

集合場所

JR総武線信濃町駅改札

懇親会場

「日本青年館」9階「EAST

WAND」東京都新宿区霞ヶ丘 4-1-8 03(6447) 5695

受付 午後12時半 開宴1時

懇親会費 7千円(同伴者5千円)

見学先

◆「聖徳記念絵画館」明治天皇、昭憲皇

太后のご聖

徳を後世に

伝えるため

に大正15年

に建立(写真下)。

◆「新国立

競技場・東京

オリ

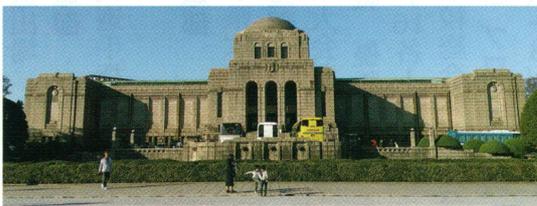
ピックス

スタ

ジアム」(写真左)。



このほか、「ジャパン・オリンピックピック・ミュージアム」 「明治神宮野球場」など見どころ満載です。なお、開催中止の場合はホームページに掲載します。



事務局だより

◆叙勲・褒章受章者

令和2年春

旭日小綬章

江田肇氏 (高14)

地方自治功勞

元・川越市議会議員

旭日双光章

市野川恭三氏 (高15)

生活衛生功勞

元・埼玉県社交飲食業生活衛生同業組合理事長

瑞宝小綬章

根生 雄勝氏 (高17)

地方自治功勞

元・埼玉県議会議務局長

瑞宝小綬章

矢部秀一氏 (高21)

教育功勞

元・公立高等学校校長

瑞宝双光章

富田 三千彦氏 (高20)

教育功勞

元・公立中学校長

令和2年秋

瑞宝中綬章

塩川 修氏 (高20)

地方自治功勞

元・埼玉県副知事

川越高校のクスノキが日本128大樹名木に選ばれる

川越高校のクスノキが、写真家・青木楓氏がこのほど出版した「日本大樹名木図説」(クラフト舎刊)に取り上げられました。

「日本大樹名木図説」には、全国128の大樹名木について、その写真とともに樹木にまつわる説明文が掲載されています。その中で、本校のクスノキが、日本を代表する大樹名木の仲間入りをしました。

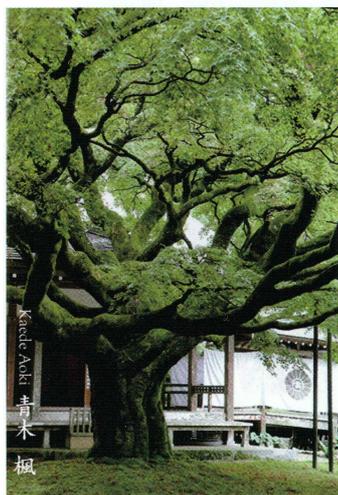
事務室で写真撮影の許可を求めたようです。

青木氏は長野県出身で、学生時代まで故郷で過ごし、就職を機に関東に移住。その後、海外赴任などを経て現在は埼玉県内に住んでいます。クスノキの写真撮影と取材の後、植樹当時のいきさつに関する資料提供の窓口を同窓会事務局が担当。母校記念誌から諸情報を提供しました。母校関係者には見慣れたクスノキですが、なぜ選ばれたのか著者に伺いました。



REMARKABLE TREES OF JAPAN

日本大樹名木図説



「ふとしたきつかけで日本の樹々に興味を持つようになり、日本の文化や情緒に関係の深い樹木について、あらためて見つめ直してもらいたいと考え、書籍として残そうと思う



川越高校のクスノキ

ようになりました。大樹名木ともなると数百年もの歴史があり、どうしても過去に目が行きがちです。その点、川越高校のクスノキはまだまだ若いですが、私が訪れた際に在校生その他関係者の方とお話しさせていただけたいところ、皆様に愛されながら生育してきたことが、ひしひしと伝わってまいりました。そのようなクスノキ、貴校、そして日本の情緒の未来に想いを馳せながら、取り上げさせていただきます。いただいた次第です」

青木氏から頂いた回答を通して、川越高校のクスノキを母校のシンボルとして、これからも在校生とともに大切に育てていかなければならないという思いを新たにしました。(同窓会事務局長・金子保夫)

◆寄贈図書

・吉田裕氏 (高25) 「兵士たちの戦後史」

・奥泉光 (奥泉康弘) 氏 (高26) 「死神の棋譜」

・沖方丁 (藤野峰男) 氏 (高47) 「戦の国」

・手塚マキ (荒田成志郎) 氏 (高48) 「新宿・歌舞伎町」

・新井正人氏 (高57) 「鷗外文学の生成と変容」

・弓永端子 (張振太) 氏 (高61) 「ハッカー・ゲーム」

・陸上競技部OB会 「部史―百余年のあゆみ」



◆ 総会のご案内 ◆

日時 5月30日(日) PM 1時30分より受付

会場 ラ・ボア・ラクテ(4階ベガ) 電話 049(243)6600

- ・ 総会 PM 2時～
- ・ 記念講演 PM 3時～ PM 4時 15分

◆ 記念講演

講師 山野清二郎氏(高12) 埼玉大学名誉教授

日本上代文学(「万葉集」・「古事記」など) 日本漢文学(「懐風藻」など)

演題 『万葉集』「令和」の梅花の宴



※本年度の懇親会は中止します。

※新型コロナウイルスの状況により中止になる場合があります。
中止の場合は、ホームページに掲載します。



創立120周年の名簿・記念誌・川高紹介書籍の在庫について

120周年事業で製作した会員名簿(税込み3,500円)や創立記念誌(同1,000円)、ノンフィクション作家の神山典士氏(高31)著の「川越高校のリベラルアーツ教育」(青月社刊・同1,500円)に在庫があります。名簿・記念誌・川高の紹介本の3点をセット(同6,000円)購入の方には、特注の布製手提げ袋をお付けします。

ご希望の方は同窓会事務局 ☎049(225)9071までご連絡下さい。

同窓会ホームページを活用して下さい ▶ <http://alumni.gnk.cc/kawagoe/>

- ・過去に発行された創立記念誌は、『川中・川高・定時制の歴史』の項目『記念誌』にPDFで掲載しています。「五十年史」「七十年史」「八十年史」がすべて見られます。
- ・年1回の同窓会報では載せきれない同窓生の活躍のニュースや学校行事など、タイムリーに掲載しています。また、「お問合わせ伝言板」は、住所変更の連絡・同期会・クラブOB会の呼び掛けに活用できます。
- ・同窓会事務局の連絡には、専用電話&FAX **049(225)9071**
また、メールアドレス **alumni@hb.tp1.jp** をご利用ください。

編集後記

本号は、新型コロナウイルスのまん延が本校や同窓会活動に与えた影響を、歴史として留めることを主眼に編集しました。表紙は、リモート始業式で各教室の生徒に挨拶する飯田校長の様子です。

特集1では、本校の授業や行事など非常事態下での遂行状況や、制限下でのOB会の活動状況をまとめました。

特集2では、そんな中であって「川高初雁の森」活動が彩の国埼玉環境大賞「優秀賞」を受賞した吉報を掲載しました。

コロナの影響は本編集部にも及び、編集会議や座談会なども削減や断念をせざるを得ませんでした。教職員やOBの皆さんのご協力により、何とか発行に漕ぎつけることができました。あらためて感謝申し上げます。(大澤)

尾崎勝美(高11) 岡部恒雄(高15)
 圓山壽和(高17) 栗原忠男(高20)
 栗原由郎(高21) 一瀬 要(高23)
 金子保夫(高25) 大澤 誠(高26)
 平野正美(高26) 山本隆浩(高55)